

会 議 録

1 会議名

平成28年度 第6回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 金谷区の地域課題について（公開）

(2) 今年度の金谷区地域協議会の取組について（公開）

3 開催日時

平成28年9月28日（水） 午後5時56分から午後7時55分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 2階 第一会議室

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：高宮宏一(会長)、川住健作(副会長)、村田敏昭(副会長)、伊崎博幸、石野伸二、伊藤三重子、牛木喜九、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、土屋博幸、永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、槇島係長、小林主事

8 発言の内容

【小林主事】

- ・16名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：土屋委員、永野委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

一次第3議題（1）金谷区の地域課題について一

【高宮会長】

次第3議題（1）「金谷区の地域課題について」に入る。

前回は、2班に分かれて、金谷区の地域課題についてグループ討議を行った。本日はその結果をもとに、金谷区地域協議会として今後取り組むべき地域課題について、全体で協議を行い、取り組む課題を決めたいと思う。

まずは資料No.1について、この中のどれに重点を置いて取組を行えばよいか、委員の意見を伺いたい。

【吉村委員】

ヨーデル金谷の敷地内を活用し、地元の農産物を販売する朝市などを開くことは、地域に密着するようなイメージもあり、素晴らしい考えではないかと思っている。場所や施設の構え方など規制はあるかもしれないが、例えば駐車場を囲うようにプレハブの長屋を売り場として、農産物や植木、手作りのパンなどを売る。金谷山ではイベントがあり、山麓線に面し、上越高田ICが近くにあるので、立地も良いし、活性化もする。

【山口委員】

青田線のバスが非常に不便な時間帯で運行されている。乗客は0～3人しか乗っていない。また、金谷区のサロンなどに行きたくても交通手段がないという声も聞く。なので、もっと本数を増やし、ワゴン車等に小型化するべきである。昼間は若い人たちが勤めに出てしまう。お年寄りには車を持っていない。バスに力を入れ、本数を増やしていけばいいと思う。

【西条委員】

ヨーデル金谷は夜に通ると車も少なく、「やっているのかな」という感じであるため、朝市を開き中で軽食を取れるような営業をしていただきたい。更に滝寺の「金谷北地区農村元気会」などの団体も参加するイベントを考え、ヨーデル金谷の敷地を活用できれば、人の流れも集まってくると考えている。

【永野委員】

ヨーデル金谷の活用がよいと思う。最初はそんなに金をかけず、花見で使うようなプレハブから始め、徐々に大きくしていく。また、あわせてトイレを設置すれば、途中休憩できる場所としてバスを誘導できるのではないかと考えている。

【土屋委員】

金谷区の観光について3つぐらいの柱を決め、そのパンフレットを作り、金谷の名前を広げていく必要があると考えている。最近、富山の小矢部にあるアウトレットモールを見学したが、本当はこの施設は上越に作る予定だったということを知った。大きな施設がひとつできて人が来るということが課題解決につながるかどうかも含め検討が必要。人を集めるにはどうしたらいいか考えた結果、名前を広げるべきと考えた。

【竹内委員】

地域協議会の課題決めは、その先の市への要望などを考えると、議論を急ぎすぎている気がする。これから出張協議会で意見交換を行うが、若者や地域の方の意見を聞いてからでも遅くないと思う。自主的審議事項として出た課題が、改選前の4年間でひとつしかないことを考えれば、慌てずにいろいろな所から意見を聞きながら進めていくべきである。委員だけで急いで決める必要はないと感じている。

【高橋委員】

資料No.1の意見は、全部実現できないのではないかと。先ほど意見が挙がったパンフレットを作るにしても、誰がやるのか分からない。私たちは討議するだけで、実現できるものはひとつもないと思う。誰か出資してくれる人がいれば別だが。前にも言ったが、実現しないことについて協議会で話をしても無駄になる気がする。

例えば、ヨーデル金谷でプレハブを作って野菜を売るとあるが、このプレハブは誰が買うのか。誰が集荷するのか。ヨーデル金谷はリフレ上越山里振興株式会社が

経営している。くわどり湯ったり村も経営しており、取締役を私がやっている。その関係で、金谷北地区農村元気会から、ヨーデル金谷の敷地と昭和町の上越信用金庫の駐車場の2カ所で曜日を変えて農産物を販売したいと話があり、私から紹介して場所を借りることになった。だが、集荷が間に合わず、ヨーデル金谷は止めている。金谷区には、昔から大農家がない。自家用で精一杯である。今、市場へ出して売っているのは飯から正善寺までの数名程度である。これは、夢みたいな物語である。

それから、人口減少の問題は、金谷地区は今のところそんなに減っていないが、大切だと思う。

観光資源についても、過去に地域活動支援事業を使い、金谷区の歴史観光マップを作り、市民プラザや市役所の観光振興課、直江津港などに置かせてもらったが、とても評判が良く、人も多く来た。しかし、結局観光にはならない。前にも言ったが、お金を落としてもらわなければ観光にならない。お金を落とす場所が金谷区にはない。

資料No.1に上がった課題を見ると、現実的なものがひとつもない。できるとすれば、区内に公民館を移転することぐらいである。上越市内のうち金谷区はトップクラスの人口なのに、公民館や集会場が区内にひとつもないのはおかしい。署名運動などを行い、市へ陳情すればできることである。できることからやっけていかないと難しいと思っている。牧区には役場まである。金谷区はそれよりも数倍人口があるのに、集会所もない。まず本拠になる大きい建物として金谷区内に公民館を作り、その中で物を販売したり、いろいろな人が集まって新しい土産を開発したりする。会議や試作する場所がなくては、土産はできない。売り上げがなかったら観光にはならない。だから公民館の利便性は大事だと思うし、活動の場所をまず作らなくては、金谷区は伸びないと思う。活動する場所が欲しい。

また、排水の問題は大事だと思う。

「技」を持っている人の発掘は、発掘した人をどう活用するのか。上越市は、20年ほど前にマイスター制度を作り、下駄屋、ケーキ職人、染物、織物などいろいろな分野にマイスターがいるが、名前をもらっただけで終わっている。技術を持

っている人は本当に大事である。例えば大工などは、技術はもういない。ドライバーと水平器と接着剤、その程度あれば仕事をしていける。これは上越市だけでなく日本の問題である。日本の技というのは素晴らしいものを持っているが、残っているのは一部の地域だけである。上越にも三味線や金工師などが多くいたが、飯を食っていけない。

ヨーデル金谷の問題も、出荷できる人がいれば可能かと思うが、今のところは無理だと思っている。

携帯電話がつながりにくいのは、場所によってそのような場所があるため改善しなくてはならない。

また、山麓線の開通によって、地盤が変わった。特に黒田、灰塚あたりは、田んぼの高低差が変わり、排水問題が出てきた。そういうのは大事かなと思っている。

討議するのも結構だが、実現できるものからやるべきである。また、地域協議会委員で署名運動を行い、金谷区に公民館を作ってほしいと市に陳情することも考えたが、協議会委員がそういう活動をしたら支障あるか。

【榎島係長】

地域協議会は、制度として意見書により市長へ意見することが担保されているため、署名等の活動はそぐわないと考える。

【高橋委員】

要望書は出せず、意見だけ出せる。そうなると、この協議会は何のために話をしているのか。

【齋藤委員】

公民館は昔の金谷村の時代から移動しないままであり、区外にあるため行きづらく、建物も古い。13区には立派な建物があるため、金谷区でも、地域協議会を含めて会議をするのにふさわしい場所が欲しいと思った。

あと、青田線のバスの乗客が少ないということだが、私も正善寺線のバスについて、沿線の町内で協議会がありいろいろ関わっている。今は1日4便しかなく、土日は運休なので使いづらい。便数が多いと赤字が増えるということで、減らした結果、不便になってしまった。今、乗客数は1便あたり平均0.6～0.7人であ

る。市から現在約360万円の助成金がある。今のところ市としては廃止するという話はないが、沿線町内の協議会としても何とかするべく、いろいろな団体と話をするなど活動している。

そこでは「金谷北地区農村元気会」とも関わっているが、国から資金をもらい、特に増加したイノシシ対策が活動の中心なのだが、いろいろな部分で地域の活性化に向けて活動している。その団体と連携し、観光も含めて拠点になる場所を作る、という意見もあるため、今年度の地域活動支援事業で採択された春日山城跡散策道の整備等も利用して、知恵を出すコーディネータとして地域協議会が関わっていけるのではないかと思った。

【桑山委員】

私は上越市に来て20年経つが、上越市のことは20年経っても分からないことばかりで、金谷区はどこまでが範囲なのかも全然分からなかった。ということは、他の皆さんも金谷区のことを本当に知っているのかどうか。皆さん生活でいっぱいだと思うが、地域の発展のため、地域の全体の動きをどう考えているのか。

私は町内会の活動に参加しているが、地域協議会が各町内会と協力すれば、もっといい知恵が出てきて、発展していけるのではと思っている。地域で隠れていることの発掘を行うために、住民の人たちと意見交換をしていけば、知恵が湧いてくるのではないかと考えている。

【牛木委員】

ヨーデル金谷はどの程度利用されているのか、立ち寄れないため状況が分からない。話を聞く限りでは、せっかくいい建物があるのに利用されていないような感じを受ける。山麓線も交通量が増えたため、バスが駐車できるスペースの必要性も感じる。

また、金谷区特産の観光土産がどの程度あるのかも分からない。私たちは中ノ俣で3年くらい前に、市の協力も得て山菜祭りを行ったが、多くの人 came。だが、次の品物が揃わないことと、私も歳を取っており後継者もいないことから、朝市をやるにしても協力できないので、朝市をやってほしいとは言えない。ただ、ヨーデル金谷の活用を市に要望し、客が立ち寄れるようにするべきである。

また、公民館も「金谷地区公民館」と言いながら高田にあるが、建物を揃えてもどの程度利用できるかという課題もあると思う。中ノ俣に立派なセンターができたが、ここに来て市から維持管理は地元でやるように言われ、費用の捻出に毎年苦勞している。

【伊藤委員】

過去に地域協議会でどのようなことをされてきたのか知りたかったが、高橋委員の話聞き、何となく一部が見えてきた気がする。

私は、若者と地域をつなげたいと考えている。そのために、公民館などの公的な場所が欲しい。何か集めて若者たちから地域に興味を持ってもらうために、その舞台が必要だと思う。空き家を借りてはどうかと思ったが、それもいろいろなハードルがあるだろうし、やはり公民館や公の建物があつたらありがたい。

【石野委員】

高橋委員が言われたことに賛同する。

過去の経緯は分からないが、約半年携わった感想としては、地域活動支援事業は地域協議会を経由してお金をばら撒いているだけで、身につけている部分が非常に少ないのではないかなと思う。

資料No.1のような課題や意見が出ているが、ヨーデル金谷を例に挙げれば、地元の農家の意見を聞かないことには進まないし、今後農業を拡大する人がいない限り実現できないだろう。すぐに実行や対応できるものを優先的にやるべきだと思う。

また、この広い上越市の中で、高田の大手町の元測候所と妙高市の市役所の間には雨量計が1個もない。今年7月の大雨では、正善寺や中ノ俣周辺がピンポイントで250ミリ以上降っているが、ピンポイントで降っている場所の避難勧告の判断はどうやってするのか不透明である。ここは地すべり地帯の指定もされている。これからも住み続けたい地域を目指すために、ライフラインの確立など実現可能な課題を選び、意見や要望として上げていくべきだと思う。

また「若者の意見を聞くべき」という意見があるが、出張協議会でも意見交換を行うが、若者や働いている方の意見を聞くのであれば、平日ではなく土日に行くべきである。他には、金谷地区の町内会長会と地域協議会とでディスカッションする

など、意見を吸い上げ協働することが必要だと思う。この中のどれがということはないが、実現可能なものからやるべきだと思う。

【伊崎委員】

私は若者の意見をどんどん聞いていくのがいいと思っている。地域住民の方の意見を聞くことが、地域協議会の大事な仕事であると思う。私は金谷区に住んでまだ4、5年だが、地域協議会も地域活動支援事業も知らなかった。おそらく金谷区の若い方たちには、小さい団体でもその地域をより良くしようとして活動されている方たちがいると思う。そういった方たちにこの支援事業を知ってもらえば、そこから金谷区が盛り上がるイベントの案が上がってくるかなと思う。私は個人的な活動として「若者未来会議」というのをやっている。市議会議員4、5人に集まっていただけ、私の知り合いやSNSのつながりで150人くらいメンバーがいて、月2回、平日夜と昼間、昼間はママさんたちにも来てもらい、上越市がより良くなるように、ママさんたちが活動しやすくなるように意見交換をする会であり、非常に盛り上がっている。この金谷区でも、町内会や町内会ごとに子供会、青年会、婦人会等があると思うので、年齢を区切りながら意見交換会を細かく行い、多くの人から出してもらった意見を我々地域協議会委員が集約し、皆さんの人脈や経験を基に意見を具体化できるような案を提案してもらい、それを市議会や市へ求めていけばよい。

私もヨーデル金谷の案はいいなとは思っていたが、高橋委員が言われたように、じゃあ誰がやるのかと考えれば、実現は難しいと思った。だが、熱い思いを持って私たちでこのまちを良くしたいという市民の方々の力を、私たち協議会委員が後押しできれば、いろいろなことが可能になるのではないかと思っている。

【川住副会長】

農産品の販売について、昨年度、JA職員の方が委員の中において、山麓線の今の中央支店のそばに、あるるん畑に近いような施設を作るという話を聞いた。ああいう施設ができれば、農産品を売る施設ができることになる。だが、たまたま農協の支店長に会った時に、こういう話があるがどうなっているのかと確認したら、採算が取ればやるが、現時点ではまだ見通しがはっきり立たないということだった。

そこで、迷いを払しょくするために、我々はこう協力するので是非作って欲しいと働きかけることが、我々の仕事ではないか。我々が自ら物を売ったりするのは無理だと思ふため、JAに協力してもらおう。和田や三郷あたりからも要望が上がってきているそうである。そのため、我々がいろいろな意見を出して協力体制をとり、他所に負けないよう説得する必要がある。

また、ウォーキングについては私が提案した。今、健康が非常に騒がれていて、歩いている人が非常に多い。医者に「歩かないと死んじゃいますよ」と言われ、歩いているようである。金谷区は山麓線が真ん中に通っている。商店のある前は明るい、金谷山から上中田に行くまではほとんど照明がない。また、草も生えている。そういった所を整備して、健康を兼ねたウォーキングを皆で推し進めたらいいのではないかと思う。

【村田副会長】

今、皆さんのいろいろな意見を聞き、改めて自分自身の勉強不足を痛感している。また、今日の協議会で、今後取り組む金谷区の地域課題をどうしても決めなければいけないのかとも思っている。私たちの半分ぐらいは新任の委員であり、半年で取り組むべき課題が分かるのかとも思っているため、もっと時間をかけるべきである。また、私たち協議会委員としてでき得ることは何か、この会に意義はあるのかと思つた。事務局に、なぜ今回の会議で金谷区に取り組む課題を決めないといけないのか尋ねたい。4年かけて取り組んでもいいのかなと思う。

今日、私どもの町内会に、平成20年から嘆願していた地域の下水道の整備工事が、何とか平成29～31年に取り組むことができるという朗報が入つた。足かけ10年である。このように時間がかかることもあるため、私たちも6カ月で取り組むべき課題を決めなくてよいと思つている。

また、例えば公民館を移設しようとか、自衛隊の増員を要望しようとかは、私たちで運動できる課題もある。

あるいは、平日の夜に出張協議会を開くだけでなく、土曜日、日曜日にもっと門戸を開いて若者の意見を聞けるような会を開くことも肝要なのかなと思つている。

会長には取りまとめる立場を崩すようで申し訳ないが、今日ここで取りまとめな

くてもよいと考える。

【高宮会長】

前回2班に分かれて金谷地区をどうしようかという意見を出し合った。出た意見をまとめたものが資料No.1であることを思い出していただければと思う。

それから、全て自分がやらなければいけないというものではない。挙げた課題について、例えばあるるん畑のような施設の整備についてJAと話をするなど、団体等と話をしたうえで決めていくことが大事かと思う。

それから、先ほど別の会合を持っているという話もあったが、自分なりに動いて情報を得ているか。私は町内会長をしているため、町内の役員会等で、地域協議会で取り上げてほしい意見がないか、あるいは地域活動支援事業についても何かないかと聞いている。また、ここには飯、御殿山町、昭和町の町内会長がいるが、滝寺の町内会長はいない。私もまだ話はしていないが、何か地域協議会の課題として出せるようなものはないか、動いて聞いてくるべきである。今日は会議だから出てきた、だけではだめである。自分の足で現場を歩いて確認し、協議会で意見を出してきた委員もいた。「地域協議会委員手引き」にも書いてある。地域の意見、話題、問題点などを地域の方と話してきてほしい。例えば、ヨーデル金谷で朝市をしたいということになれば、ヨーデル金谷の経営者が出てくる。私はまだ話していないが、協力願えるか話に行ってみるべきである。だめだよと言われるかもしれないがやりましょうと言われるかもしれない。皆さんも日々、新聞を見ていると思うが、上越妙高駅でこのあいだ野菜の販売や古本市が出たという記事が載った。そういうようなことができるのかは、やはり自分の足で動かなくてはいけない。地域協議会委員は費用弁償として1,200円しかもらえないため、ボランティアでお金にはならないが、やはり地域協議会委員として誇りを持って課題に取り組んでほしい。

これで全員が意見を話したので、全体の協議に進みたい。ここで決めなくてはいけないのかという意見が出たが、そのあたりについても意見を出していただきたい。

【高橋委員】

例えば話し合いの中で、課題に加えてもらいたい意見が出たら加えてもらえるか。

【村田副会長】

いいと思う。新たないい意見が出れば問題ない。

【高橋委員】

分かった。

【高宮会長】

自分の足で動いて、耳で聞いて、見なければだめだと思う。ただ協議会に参加するだけでは意味がないと思う。

【高橋委員】

ヨーデル金谷の話が出ているが、ヨーデル金谷自体はそれを望んでいるわけではない。あれはレストランであるから、レストランを活用してもらって話を進める方がよいと思う。私も先日、ヨーデル金谷で開かれたひとり1,800円の食事会に90人を集めた。観光バスが最近は来ているが、地元の人が利用しないと、だんだん細々となってしまうのではないか。

【伊藤委員】

私も50人くらい集めて、年2回ヨーデル金谷を使っているが、90人も入るのか。

【高宮会長】

私は中に入ったことがないので分からない。

【村田副会長】

結婚披露宴だと50～60人はゆうに入っている。

【伊藤委員】

50人はゆうゆう入る。

【高橋委員】

披露宴は、今はほとんどない。

【土屋委員】

お土産を売るのにいい施設が、ヨーデル金谷以外に金谷区の中にあるのか。高橋委員が言われたように、ヨーデル金谷の経営者は望んでいないのであれば、他の施設に話をし、経営者が地域協議会の話を知りたいとなったら、地域協議会に来てもらうというように、少しずつでも前に進む話ができたらいいのではないか。

【高宮会長】

そこに行くまでには段階的にやらないといけない。例えば、ヨーデル金谷に話を
するにしても、何を土産に出せるか足で調べるなど下調べをしたうえで、施設利用
に協力してもらえないかという話をしないとけない。金谷区としてこういうこと
をして観光、地域を活性化したいという目標を持ち、そのためにこれが必要とい
うのを積み上げて、社長に話すという段取りになる。

ということで、金谷地区としてはこういうものをやりたいという考えを決め、そ
のためには何をしたらよいか次課題で出てくる。それをまた話し合っていく。
その時には、皆さんが各地域に帰って話をし、こういうものがある、こういうもの
はどうだろうという話を次回の会議で出して協議するかたちになる。

【石野委員】

農産物等については、私の隣の灰塚地区の農家や生産法人が、近くのスーパーで
野菜の販売をしている。来春に別のスーパーが新たにできる。そういうところで地
元の野菜等が販売できれば、ヨーデル金谷など他の手段を考えなくてよい。スーパ
ーでは、地元とお店の店長でディスカッションを設けているそうである。今年また
開くから、来て話を聞いてくれと言われた。それが、いろいろな情報を得るとい
うことだろうなと私は思う。

【高宮会長】

南部の方で農家の方が作って、販売所に出しているとのことである。農家の負担
が増えるが、金谷の活性化のためにどうだろうかと話をすれば、協力してくれるだ
ろうと思う。

【伊崎委員】

若者の意見を聞くということは、私が一番やりたいことである。金谷区では皆さ
んも役員をされているいろいろな組織があると思う。まずはその組織がどのくらい
あるか調べ、地域協議会主催でその組織の代表に集ってもらい、意見交換のよう
なものができるれば面白いと思う。高田本町では、本町関連、高田関連のいろい
ろな活動をされている代表の方たちが集まり、何かみんなで力を合わせてできないか話
し合う会議を月1回開いているそうである。金谷区でも、私が知らないだけである

のかもしれないが、そういったものをひとつ提案したいと思う。

それと、先ほど高宮会長が言った、地元の方の声を、足を運んで聞くという意見には大賛成だが、どのような方が住んでいるのか情報がない中で、「地域協議会委員です。話を聞かせて下さい。」といきなり行っても、「何だ、この人」で終わってしまうため、各町内会長の協力を得て、回覧板や地域協議会だよりで若者やママの意見を求める会のようなものを周知し、細かく地域の声を拾い上げるシステムを作ることができれば、老若男女の声を聞ける組織になるのではないかと思い、提案したい。皆さんから、こうした方がよりよいというアイデアがあれば、是非お願いしたい。

【高宮会長】

私も町内会長をしているが、地域協議会委員が来て話を受けないということはまずないと思う。積極的に行っていていい。そのために名刺も作った。会員証も見せればいい。そう恐れることはないと思う。金谷区は28町内あるから、中には「うーん」と言う方もいるかもしれないが、心配はないと思う。金谷区の活性化のためにそこまでやってくれるのかと、町内会長も喜んで聞いてくれると思う。

【伊崎委員】

私1人でも動けるが、28町内を1人で回るわけにもいかないのだから、皆さんでそういったことをするのは可能なのかと思った。地域の方の声を聞く、足を運ぶ、その手段を持っている方もいれない方もいると思うので、回覧板で回す統一した文書などを作り、定期的にそういった会を開いていくようなことができれば、面白いのかなと思っている。

【高宮会長】

他の地域協議会では、町内会長に来てもらい意見交換をしているという記事が新聞に載っている。各町内会長から来てもらいたいのであれば、金谷地区町内会長会は会長が高橋委員であるから、高橋委員から各町内会長に呼びかけてもらえばよい。

ただ、誰かがやってくれるだろうではなく、まず自分が動くべきである。私であれば、いくらでも各町内会長にお願いしてくる。いろいろな地域協議会で、町内会長との意見交換をしている。我々だけで何かをしようとしても権限がないが、金谷地区を活気づけたい、元気づけたいという志があれば、他の団体をお願いするこ

とはやぶさかではないのではか。

【竹内委員】

若い人が町内に入ってもよいという話だが、若者は忙しく町内で活動していない。若者がどんな活動のために町内に入るのか、また市議会と結びついて最終的にどのような活動まで進んで、市にどのように反映されていくのか、若者を育てあるいは生かしていくために聞きたい。

【伊崎委員】

月2回、私の知り合いに声をかけて、昼の回と夜の回を開き活動している。上越を良くしたいと思いを抱いている若者はすごく多いが、それを訴えるところがない。行政とつながっていない、政治とつながっていないのが現状なので、そこをどうにかつなげて、若者の思い、パワー、アイデアを何か具体化できないかと思いついて活動している。

今、その中で、ひとつ具体的に動き出している団体がある。金谷区だけでなく、上越はウィンタースポーツが盛んであり、スキー、スノーボードに行こうと思えば30分でスキー場に行ける。海にも行こうと思えば30分で海水浴場へ行ける。なので、スキー、スノーボード、サーフィンやスケートボード、あとは金谷区の目玉でもあるBMXといったものを一堂に、屋内型の複合施設を作ることができないか、若者たちが動いている団体がある。例えば、スキー、スノーボードは夏にはできない。でも愛好者は多いので、どこに練習に行くかというところ、長野や富山のオフシーズントレーニング施設に行く。スケートボードは逆に冬はできないので、愛好者はスノーボードをしたり、県外の屋内パークに足を運んでいたりという状態である。上越にそういった屋内パークがあれば、若者が集まり活気づくのではないかとということで、まだまだ道筋は見えてきていないが、その組織に今200人くらい会員が集まり、場所は金谷山周辺がいいのではないかと話もある。若者の力で上越をより活気づけることができないかということで発足した団体が今、ひとつ動き出している。

そして、ママさんたちとは、子育てがしづらい、雨の日に遊ぶ場所がないため遊ぶ場所をもっと上越に作って欲しいという意見や、ママさんたちはしゃべるのが好

きなので、気軽に話せるカフェのような施設を空き家を使ってママさんたちで作れないかという意見について、市議の方たちから、補助金があるとか、こういう知り合いがいるからこういったことが可能だとかアドバイスをもらう、といった意見交換をしている。

【高宮会長】

各町内に町内会館がある。そこを利用するのもひとつの手である。使用料を取っている町内会もあると思うが、お茶を沸かしたり、ジュースを買ってきたりするなどして、話ができる場所がいろいろあると思う。ただ、若い人が望むようなお店がいいということになると別だが、やり方としてはいろいろあると思う。昭和町1丁目は積極的に会館を利用して、いろいろな行事をやっている。

【山口委員】

人集めをしても、例えば土産物売るなど、最終的に収益をあげなければいけないと思う。

我々がいくら協議しても、市長への意見書までいかないという意味がない。過去4年間では、協議会として市長に具申することがあまりなかったので、もう少し力を入れ、回答をもらえるようにしていくべきと思っている。

私の住んでいる灰塚で、一農家がねぎの栽培をやっているが、年間を通じて生産するとなると難しい。畑をやっていれば分かるが、年間を通じてものを作るというのはなかなか難しい。特に冬がある。そこをどうするか、我々も考えている。スーパーの敷地にテント小屋を作って販売すればいいのではないかと、私もアイデアを出した。新潟の石山駅では、野菜の無人販売をしている。駅を降りる人が買っていく。お母さん1人でやっているが、すごい売上を出している。それもお金がかからないアイデアで、そういった取組はどうかと農家の人に話しているが、問題が多くある。だから話し合いをしながら、みんなでアイデアを出し、最終的に市長に意見書を提出するよう持っていかないといけない。言うだけでは何も実現しない。こういった会議で話ただけで、果実として得るものはないと思う。先ほど高宮会長が言ったように、私もこれからは足で稼いでやろうと思う。過去の4年間はまるっきり会議に出てくればいいのかというような考えだったが、これからは自分の足で動き、

いろいろなことを考えて言えるような委員になりたいと思う。

【齋藤委員】

いろいろと話が出ているが、課題を絞りきれない。まず課題を挙げているわけだが、挙げた課題に対して地域協議会でどう関わるべきかという話がなく、外側をぐるぐる回っているような感じで、時間ももったいない。いろいろな意見を聞くと、頭が混然一体となってしまって、なかなか整理がつかず、妙案が出ない。急ぐ必要はないという意見もあるので、4年間の中で、または毎年1年間の中でひとつの成果を出すべく、結果はどうあれ取り組むことが必要ではないかと思う。課題を出して、地域協議会でどのように取り組むかという話をしたほうがよいと思う。

【石野委員】

10月と11月が出張協議会になっているが、こういう議題を話し合う場ではないと感じるので、この話を次に話せるのが12月までずれ込むため、早目に決めなければいけないという部分もあるが、絶対に決めなくてはいけないということはないと思う。出張協議会など、いろいろ情報収集したことを踏まえて意見集約をしたらどうかと思う。

【山口委員】

やはり地域との意見交換はよかった。灰塚で出張協議会を開催した時も一般の方が大勢傍聴に来て、最後の意見交換ではいろいろ意見が出た。地域との交流会の中でいろいろな意見を吸い上げるというのは、いいことではないかと思う。それを踏まえて、その後じっくり冬場に議論すればいいのではないか。

【高宮会長】

今日課題を決めなくてもよいという意見が出たがどうか。

【高橋委員】

決めなくてよいと思う。

話は戻るが、先ほど伊崎委員が、200人くらい会員がいると言ったのは、いろいろな競技を全部入れて200人なのか。

【伊崎委員】

そうである。

【高橋委員】

それがひとつになっている団体があるのか。

【伊崎委員】

アクティブスポーツ協会というのを立ち上げた。

【高橋委員】

市議会議員が4人くらいいると言っていたが、その人たちは動いてくれないのか。

【伊崎委員】

施設の建設を実現するためのアイデアは出してくれている。

【高橋委員】

総合運動公園や武道館の新設に関連して、何か頼んでいないのか。

【伊崎委員】

その情報はなかった。屋内でするので。

【高橋委員】

屋内施設でそういった競技をやりたいということか。

【伊崎委員】

そうである。

【高橋委員】

屋内でやりたいならその中に入れてもらえばよい。設計がまだできていないと思うので。市議会議員が4人いれば大丈夫。市議会議員が動かなければ、動かす人を紹介する。

【伊崎委員】

お願いしたい。

理想の施設を作るとなれば7億円かかる。空いている工場跡といった土地・建物があれば、中身は1億円くらいでできる。

【高宮会長】

課題決めは次回以降の協議会でまた考えることとし、例えば町内会長との意見交換ができればよいと思うが、それでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

【竹内委員】

どの課題についても、もっと意見を聞かなくてはいけない部分、あるいは資料を整えなくてはいけないものも多くあると思うので、月1回のこのメンバーだけの会議では前に進まないのではないかと。毎回16人で論議しても、意見がたくさんあり過ぎて、前に進んでいかないと。三役と事務局とで相談しては。

例えば、竹内委員はヨーデル金谷へ行って問題を聞いてきてなど、皆さんからそれぞれの場所を見てもらった情報が集まりましたというところに入っていかないと。雨量計が新井と大手町にしかないならここに付けましょうというように。

【土屋委員】

私もその意見に賛成である。「南葉山や正善寺ダムでは携帯電話がつながりにくいため、電波が入るよう要望する。」とある。できる委員とできない委員が当然いると思うが、できる委員がいたら、例えば情報収集をお願いし、次回以降の会議で報告するなどできると思う。いろいろな課題が出てくると、いつになっても解決しない可能性もあるため、少しずつでも前に進む方がよいのではないかと思う。

【高宮会長】

前回2班に分かれて意見交換をした結果、資料No.1の課題が出た。だが、今回皆さんに聞いたら、とてもできるようなものではないという意見だった。実際にヨーデル金谷で話を聞いてきたわけではないからで、これについて話を聞いてくるようにといったようなことがあれば調べられることもあったかもしれない。

資料を事務局からまとめてもらったのにこれでは、前回の会議は何だったのか。「この中から金谷地区としてはこれをやっ払いこう」という意見が出てくると思っていたが、その意見はなかった。土屋委員が言ったように、課題をひとつ決めて、動ける委員がいれば情報を聞いてくることもできると思う。

【齋藤委員】

先ほども言ったが、せつかく時間を使ってまとまらないからといってまた次回にと。出張協議会の話が出たらまたそちらへ行ってしまふ。どんどん広がって行って、結局まとまりがつかない。地域協議会でいったい何を課題にして取り組んでいるのか、誰も説明できない。全員が合意できるものはないかもしれないが、出た意見の中からひとつ決めるべきである。先ほど言ったような携帯電話の件でもよい。全体

の意見を聞いて何もなければ今回は決めない、ということでは、次回もまた同じである。もう少しこれをまとめるようにするべきである。

【高橋委員】

上からひとつひとつ採決していったらどうか。どれにするかと議論していたら、何回も同じことを繰り返す。除けるものは除けばいい。せっかく出た意見なので、上から全部協議した方がいいのではないかな。

【竹内委員】

上越高校の横に携帯電話のアンテナができた。十日町にある業者が、土地の持ち主に許可を貰ったと聞いている。上正善寺の入口にも携帯の塔があるが、場所が悪くてダムまで届かないという可能性もあるので、どうなっているか調査すれば、いい意見が出てくるのではないかなとも思う。

高橋委員の意見のようにすれば、除かれるものもあるかもしれないが、何の勉強もしないでいきなりというのは難しいところがあると思う。

【高宮会長】

資料No.1の意見を上から順番に協議していくという意見、次回に向けて調査するという意見が出たが、いかがかな。

では、上から順番に挙手を求める。

【石野委員】

除いていく方法と、委員の中でこれなら分かるから調べるという方法があってよいのでは。

【村田副会長】

いくつ残るか分からない。半分になればやりやすい。

【石野委員】

調べて実現可能性が高いことがわかった、となるかもしれない。

【村田副会長】

ひとつずつ挙手するのがよいか。

【伊藤委員】

意見を出した人がそう思っているのだから、調べに行ってもいい。

【伊崎委員】

ひとつずつ協議していく中で、そういった意見が出てくるのではないかな。

【石野委員】

ひとつずつ挙手していくのがよいのではないかな。誰もいなければ除く。

【高宮会長】

資料No.1の一番上の意見を検討することに賛成の委員に挙手を願う。

【齋藤委員】

上ふたつの課題は一緒にしてよいと思う。

【高宮会長】

上ふたつの課題をひとつにしたうえで、挙手を求め4名の挙手を得る。

【高宮会長】

次に上から3番目「滝寺…」について、挙手を求める。

【村田副会長】

それは先ほどの課題と同じではないかな。

【高宮会長】

先ほどの課題に含める。

次の「バスの乗客が少ない…」について、挙手を求めるがなし。

【高宮会長】

次の「ウォーキング…」について、挙手を求めるがなし。

次の「『技』を…」について、挙手を求めるがなし。

次の「出張協議会…」について挙手を求め、14名の挙手を得る。

次の「南葉高原…」について挙手を求め、7名の挙手を得る。

次の「南葉林道…」について挙手を求め、9名の挙手を得る。

次の「公民館…」について挙手を求め、12名の挙手を得る。

次の「山麓線…」について挙手を求め、9名の挙手を得る。

「出張協議会で若者も入れて意見交換をするなど、若者の意見を聞くべきである。」が14名であり、これひとつを取り上げることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

【高橋委員】

どれが除かれたのか。

【高宮会長】

「バス」、「ウォーキング」、「『技』を持っている人材」に挙手した委員はいなかった。

【高橋委員】

その3つが除かれるということか。

【高宮会長】

採用するのは、ひとつか、ふたつか。14名の「若者の意見を聞くべき」、次に多かったのが「区内に公民館を移転」である。

【土屋委員】

では、私が「技」を持っている人を探す。

【伊藤委員】

私も個人的にやってみたい。

【高宮会長】

取り上げるのは、「若者の意見を聞くべき」だけでよいか。

【村田副会長】

課題をひとつに決めるのではなく、いくつかを除くのが目的である。高橋委員、それでよいか。

【高橋委員】

これはひとつに決めるのはまずい。意見交換をして出てきた意見であるため、できるものをひとつずつ取り組むべき。

【高宮会長】

分かった。

【高橋委員】

せっかく皆で挙げた課題なのだから、ひとつずつ真剣に考えないといけない。

【村田副会長】

候補が決まったと考えればよい。

一次第3議題（2）今年度の金谷区地域協議会の取組について一

【高宮会長】

次第3議題（2）「今年度の金谷区地域協議会の取組について」、事務局に説明を
求める。

【小林主事】

資料No.2により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求める。

【齋藤委員】

今年度は、市からの諮問事項の予定はないか。

【榎島係長】

市の様々な事務を進める中で、条例に定められた事項に該当する案件が生じた場
合に、地域協議会に諮問を行う。現状では、今年度これまで半年の間に諮問が必要
な状況は生じなかった。

【石野委員】

資料No.2では、出張協議会の日に予定される自主的審議の内容が「協議」と書か
れているが、これは委員による協議なのか。それとも出張先の地域住民意見を聞く
場なのか。昨年、灰塚で開催した時に私も参加したが、最後にディスカッションは
したが、それ以外は審議の内容を聞いているだけだった。

【榎島係長】

委員による協議である。併せて、地域の皆さんとの意見交換をしていただきた
いと考えている。

【高宮会長】

他に質疑を求めるがなし。

今年度の出張協議会について、資料No.2のとおり実施することでよいか委員に諮
り、委員全員の了承を得る。

—次第4 事務連絡—

【高宮会長】

次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・次回会議日程：10月26日（水）午後6時30分から 中ノ俣地区多目的研修センター
11月16日（水）午後6時30分から 上正善寺集落開発センター
- ・地域活動支援事業に関する意見の提出を依頼

【小林主事】

- ・次回会議では送迎バスを用意

【高宮会長】

質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。